

地域産業と世界行方探る



川村教授（左端）の司会で意見交換する、左から原田理事長、岸田会頭、高木筆頭代表幹事、村上会長
（撮影・天島智則）

東広島で未来塾シンポ

「グローバル化と地域産業」をテーマにした「ちゅうごく未来塾 ↓2020」（中国新聞社、中国放送主催）の東広島シンポジウムが5日、東広島市西条西本町の市民文化センターであった。地元経済界代表や研究者たちが、製造業が集積し米どころでもある東広島市を中心に中国地方の未来像を探った。約170人が参加。蔵田義雄市長のあいさつに続き、丸紅経済研究所の柴田明夫代表が基調講演した。中国やインドの急速な発展に伴う資源や穀物の需要拡大を受け「日本にとって資源の安定供給と経済の効率化、国内資源をフル活用することが重要」と指摘。東日本大震災の後、「中国地方にその役割を果たしてほしい」とした。続いて、JA広島中央会の村上光雄会長、広島経済同友会の高木一之筆頭代表幹事、東広島商工会議所の岸田正之会頭、余剰食品の活用に取り組むNPO法人あいあいねっこの原田佳子理事長、広島経済大の川村健一教授がパネル討議をした。

ちゅーピーと学ぼう！ 試験によく出る国語



初級編

「かんせい」な住宅街。
「かんせい」を漢字で書くと？

答えは新聞のどこかにあるよ。ちゅーピーを探してね！

国際化が進む地域の現状を踏まえ「製品や農産物を地元で消費する循環型社会の視点も欠かせない」「研究機